

朔東から第 101 号 課外には、水に・空に・陸に

(脱稿：H15/8/20)

(加筆修正：H15/8/26)

第 5 師団の隊員諸官の活躍ぶりを紹介することも当HPの主要な役目だろうと思う。本務以外のところでも、朔東に勤務する隊員諸官は自己研鑽に励んでいるようだ。管内各駐屯地のクラブ活動の状況を調べてみた。管内駐屯地で現在活動している部は、5 1 個部であり、休部中が 1 5 個ある。結構多いと言うべきだろう。

さて、その表を眺めていて、何処にでもあるような一般的なクラブとは一味違ったクラブ活動がある事が解った。それらを水、空、陸、文化活動の順で紹介する。地域の特性等に応じて、地域との交流や会員相互の親睦を目的として様々な活動をしていることを知って頂ければ幸いである。隊務との節調を図りつつのクラブ活動である。

夫々のクラブ活動においては、地域の当該スポーツ等の指導者として、なくてはならぬ存在になっている者も多い。

地域の方々との交流を通じて、自らも成長し、また自衛隊に対する理解も深まっていく、素晴らしい相乗効果が発揮される。このような輪が更に広がることを期待したい。

尚、番外編として、相撲を採り上げる。



(左の写真は、帯広駐屯地での相撲大会の風景である。)

① カヌー部 (釧路駐屯地) 部員数 36 名

先ずは、私もお世話になったことのあるカヌー部から。釧路駐屯地がマリンレジャー指定駐屯地になった以降、カヌーも整備され、現在 7 隻を保有している。隊員及び隊員家族を対象に冬季を除きカヌー教室を開いている。各部隊から要望があれば、可能な限り応ずるというサービス精神旺盛な部である。

今年度は北方機動特別演習部隊の要望で、釧路湿原を流れる釧路川の川下りを実施して好評を博した。

毎年、釧路川清掃ボランティアに参加している。

② ウォーター・レスキュー部 (帯広駐屯地) 部員数:約 25 名

平成 12 年 4 月に発足。溺れている人を救助する水上救助法技術やレンジャー隊員の基礎である立ち泳ぎなどの各泳法の練度向上を図っている。

また、救助員等の資格取得のための養成訓練、及びボランティア活動を行っており、日本赤十字水上安全法救助員に 17 名が合格している。

全道で行われる競技会に毎年参加し、団体及び個人で上位入賞を果たしている。競技内容を紹介しますと、救助泳法と呼ばれる泳法でマネキンを使った泳法リレーやレスキューチューブとマネキンを使用した泳法リレー、溺者救助から陸上での心肺蘇生法処置ま

での一連の行動を競うというようなものだ。平成 14 年まで、2 年連続第 3 位、平成 15 年は個人の優勝者も。

③ アイスホッケー部（釧路駐屯地） 部員数：22 名

流石は、氷の国釧路である。スキーでは負けても、スケートでは絶対に負けないと自負する土地柄だけの事はある。募集広報及び地域住民との交流の一環として実施すると共に、併せて冬季における体力練成に資する事を狙いとしている。

昭和 49 年に発足した歴史ある部である。昭和 52 年釧路地区アイスホッケー大会 C グループ優勝以来各大会で優秀な成績を残している。平成 6 年 3 月優勝して一部に昇格し、引き続き一部リーグで活躍中である。

年間試合数約 10 大会 50 試合ほどである。

更には、管内各小・中学校、高校や大学の学生指導にも当たっている。

④ パラグライダー部（美幌駐屯地） 部員数：7 名

流石はスカイスポーツを標榜している美幌町に勤務する隊員達である。町にしっかり貢献していると言うべきか。会員相互の親睦と地域交流を目的とすると共に、会員の知識と技能の向上を図っている。技能取得者が会員。平成 7 年から活動し、15 年には、北海道新聞社取材支援、美幌ウィンターカップ大会支援、美幌和牛祭りのデモフライト等に参加している他、スクールも実施している。

⑤ オフロード・バイク部(別海駐屯地) 部員数:16名

趣味と実益を兼ねたクラブ活動である。部外競技会参加及び走行会等を実施し、不整地におけるオートバイ技術の練度向上を目指すと共に、会員相互の融和団結を図っている。

⑥ エンデューロ部(美幌駐屯地) 部員数:16名

会員相互の親睦及び地域住民との交流を目的とする共に各種大会に参加し、バイク技術の練成を行う。最終的には、山岳救助活動で、車の入山困難な場所で活躍したいと熱っぽく語っている。

⑦ 日本太鼓部(釧路駐屯地) 部員数:20名

昭和 51 年に、釧路市黒金町で「東家そば」を経営する故宮島理世様から、和太鼓、衣装一式の寄贈を受けて釧路駐屯地日本太鼓同好会が発足、翌年 3 月まで中標津知床太鼓知床流宗家初代「稲毛三郎」氏から技術指導を受けた。

昭和 59 年には、JAS 千歳沖縄直行便就航記念の沖縄公演「北海道の夕べ」に出演、平成 7 年釧路町文化奨励賞受賞。平成 10 年には、カナダケベック州での「世界民族の祭典」に 17 日間出演、平成 11 年以降は、弟子屈町摩周国際交流センターでの「音楽演奏会」に参加、幼児・児童対象の和太鼓教室を開いて以来毎年参加している。

現在は、東北海道太鼓連盟、全国太鼓連盟の各種事業にボランティア協力の他、駐屯地創立記念日、ミュージックフェスタ等自衛隊の各種行事、釧路・根室支庁管内の各種イベントに年間約 40 公演している。

番外・特別編

[管内の相撲史]

北海道は、かつては相撲王国であった。残念ながら、現役お相撲さん 500 名中、道内出身者は、20 名を数えるのみであり、幕内力士は 1 名も居ないと言う惨憺たる状況だ。片男波親方は、自衛官出身である。昭和 44 年 8 月北海道相撲大会で当時 4 連隊 2 中隊の隊員であった阿久津 1 等陸士は個人優勝した。以後角界入りし、関脇玉ノ富士として活躍された。管内の相撲の歴史は、阿久津 1 士の優勝を遡ること 10 年前からである。現存する記録によれば、4 連隊は、昭和 31 年から 9 年連続、釧路でも相撲大会実施、特科連隊でも中隊対抗実施の記録あり、帯広駐屯地は、昭和 33 年から昭和 46 年まで、途中 3 年を除き駐屯地相撲大会を実施した。駐屯各部隊での相撲大会が消滅した後は、相撲好きの連中が団体及び個人として各地の大会に参加していた。昭和 60 年十勝相撲連盟発足、以後毎年選手権大会を実施している。併せて小学生の大会をも行い、その中から、角界入りした者もあり、I 君は現在序 2 段である。将来を期待したい。

来年度以降、自衛隊員が大会に参加することが出来ないと思われるので、十勝選手権大会の開催も危ぶまれている。尚、今まで、4 連隊重迫撃砲中隊が、帯広相撲連盟（平成 7 年創設）の事務局を担当していたが、これも返上せざるを得ない。一時期、隆盛を誇った国技の相撲であるが、外国勢の進出と国内競技人口の激減で一体どうなるのだろうか。

（参考：各クラブからの聞き取り、各部隊史、関係者保有の資料等）